



新たな治療法に期待 加齢黄斑変性

加齢黄斑変性は、網膜（フィ
ルムの部分）の中心部に悪い血管
（新生血管）が生じ、出血など
で視力が下がる病気です。高
齢者に発症し、最近増えてい
ます。昔からいろいろな治療

が研究されていますが、今でも
治すのが難しい病気です。治
療はレーザー光凝固、光線力
学的療法（PDT）、抗血管内
皮増殖因子薬（抗VEGF薬）
の3つです。レーザー光凝固
は、新生血管を焼きつぐす治
療で、瞳孔を通して眼底にレ
ザー光線を照射しますが、網
膜も一緒に焼けてしまいます。
PDTは、新生血管に集まり
やすい薬を点滴しながらレ
ザー光線を照射します。網膜
は焼けずに新生血管だけをつぶ
すことができます。抗
VEGF薬は新生血管を小さ
くする薬で、眼球に注射しま
す。どの治療を選択するかは
新生血管の場所やタイプによっ
て決まります。これらの治療で

は網膜を修復することはできな
いので、網膜が傷んでしまうと
視力は回復しません。早期治
療が基本ですが、治療によって
視力が下がってしまうこともあ
ります。

網膜は光を感じる感覚網膜
と感覚網膜を養っている色素上
皮からできています。新生血
管が発生すると、色素上皮が
悪くなり感覚網膜も障害され
て視力が回復しなくなります。
そこであらかじめiPS細胞か
ら色素上皮を作っておいて、手
術で新生血管を取り除き健康
な色素上皮を移植するという
やり方で臨床研究が始まるう
としていきます。現段階では
iPS細胞の安全性を確認す
ることが主な目的で、感覚網
膜を再生するのではないので、
視力の大幅な改善は望めませ
んが、将来新しい治療法が確
立されることが期待されていま
す。